

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 (学術論文) 転写レベルでの新たなサイトカインバランス指標 TNF α /IL10 と透析歴との相関性の検討:糖尿病性腎症患者および慢性糸球体腎炎患者に対するオンライン HDF での比較 《筆頭論文》	共著	2020 年 3 月	医療工学雑誌(14): 15-25.	分母に白血球内の mRNA レベルでの HDF 前後の IL10 の変化量、分子に TNF α の変化量をとった組合せ指標を作成することで、糖尿病性腎症患者でのみ透析歴とのあいだで強い正相関を得た(相関係数 0.61)。 (丹野福士、速水啓介、新井翔太、中村雄二、中村俊平、沓野祥子、大場美香、清水希功) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) ラット骨格筋の低周波パルス波刺激による 4 型グルコース輸送体およびモータータンパク質の mRNA レベル上昇	共著	2017 年 3 月	医療工学雑誌(11): 9-19.	400 ppm の低周波刺激を F344 ラットの脛骨筋に与えることで、非刺激脚と比較して mRNA レベルでの GLUT4 やモータータンパク質の上昇がみられた。 (徳毛悠真、宮本怜於奈、速水啓介、丹野福士) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (国際学会発表) New indices for evaluating biocompatibility of on-line hemodiafiltration in patients with diabetic nephropathy, based on cytokine balance in mRNA levels	共同発表	2016 年 9 月	34 th Congress of the International Society of Blood Purification (Hiroshima, Japan)	分母に白血球内の mRNA レベルでの HDF 前後の IL10 の変化量、分子に TGF β 1 の変化量をとった組合せ指標を作成することで、糖尿病性腎症患者でのみ透析歴とのあいだで強い正相関を得た(相関係数 0.70)。 (Fukushi Tanno, Keisuke Hayamizu, Yuji Nakamura, Shunpei Nakamura, Shota Arai, Shoko Kutsuno, Haruka Ohba, Reona Miyamoto) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) オンライン血液透析濾過の生体適合性評価のための体外循環白血球内 TNF α mRNA 定量の臨床的有用性 《筆頭論文》	共著	2016 年 3 月	医療工学雑誌(10): 1-8.	ELISA による TNF α 血漿タンパク質濃度では HDF 後の増加を検出できないが、逆転写一定量 PCR による白血球内 TNF α mRNA 量では全ての患者で有意に増加を検出できることを明らかにした (P < 0.001)。 (丹野福士、速水啓介、新井翔太、中村雄二、中村俊平、山口裕右、沓野祥子、武蔵健裕、清水希功) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) 成体ラットの mRNA レベルでのエリスロポエチンおよびトロンボポエチンの臓器特異性 《筆頭論文》	共著	2016 年 2 月	広島県臨床工学会誌(4): 7-12.	F344 のラットでは mRNA レベルでの EPO および TPO の主な産生臓器はそれぞれ腎、肝であった。TPO は腎でも肝と比較して 0.65 倍と高発現していた。 (丹野福士、速水啓介、小山田桂大、戸田拓弥、仁田裕紀、宮本怜於奈、清水希功) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能